

令和7年度 次世代創出PBL推進事業  
**実施報告書【学校課題実践校用】**

学校番号	51
学校名	富山県立高志支援学校

学校の現状と課題	本校は、肢体不自由のある児童生徒を対象とした特別支援学校であり、障害の多様化・重度化が進んでいる。児童生徒一人一人の学びの充実のためには、障害の状態に応じた指導・支援が必要であり、個に応じた手だてや配慮が欠かせない。そのため、教員には、肢体不自由教育に関する専門的な知識や技能を生かして授業実践・授業改善することが求められている。	
テーマ(特色)	一人一人の学びの充実を目指した指導・支援の在り方 ～外部の専門家と連携した授業づくり～	
設定した「テーマ」の達成状況	児童生徒の学びの充実に向けて、一人一人の障害の状態に応じて指導・支援する際には、肢体不自由に関する専門的な知識や技能が必要であり、外部の専門家から指導助言を受けることで、よりの確な実態把握、目標設定、指導内容・指導方法の選定につながることが期待できた。また、教師の肢体不自由教育に関する専門性が向上し、児童生徒がもつ力をより発揮できる授業実践につながったと考える。	
実施内容 (具体的に記入する)	<p>○外部の専門家の招へい(各学部にて、1学期に1回、2学期に1回実施)</p> <p>・専門家の講師より、実際に児童生徒の身体に触れながら、身体の特徴や個に応じた支援方法等について助言をいただいた。その後、助言内容を取り入れながら授業実践に取り組み、2学期に再び講師に経過や変容を参観してもらい、新たな課題について助言をいただいた。</p> <p>(1)理学療法士による指導助言(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部…児童の身体に合わせた、座位や臥位のポジショニングの仕方について</li> <li>・中学部…生徒の身体に合わせた車椅子座位の整え方や、タオルなどを使用した姿勢保持のためのポジショニングについて</li> <li>・高等部…筋力の低下が進行する生徒に、脚の円滑な動きを促すために、筋力の強化維持の方法や支援方法について</li> </ul> <p>・分教室…長時間座位を続けるための支援方法について</p> <p>(2)作業療法士による指導助言(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部…児童の実態に合った教材の提示の仕方、筆記具について</li> <li>・中学部…生徒が握りやすい歯ブラシや歯磨きの姿勢、誤えんを防ぐ水分摂取の姿勢などについて</li> <li>・高等部…生徒の障害の状態や見え方の特性に合わせた、教材教具の工夫や提示の仕方について</li> <li>・分教室…手で握りやすい教材教具の工夫と使用方法や、行動を強化する賞賛の仕方について</li> </ul> <p>○指導助言内容の共有・実践</p> <p>・講師からの助言内容と研修会の際の動画は、学部ごとに学習会を行い、情報共有した。また、担当分掌が保存管理し、要望があればいつでも共有したり視聴したりできるように工夫した。参加した教員が、対象児童生徒だけではなく、日常的に関わる他の児童生徒への指導や支援に活かすことにつながった。</p> <p>○教材教具等の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導助言を参考に、教材教具を購入し、授業実践を行った。</li> </ul>	
取組による成果 (プロジェクト学習推進の観点から)	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の児童生徒を観察する視点が広がり、よりの確な実態把握や実態に沿った目標設定、適切な指導・支援につながった。</li> <li>・障害の原因となる疾病により異なる症状や身体の特徴への理解が深まり、課題が明確化され、達成可能な目標設定につながった。</li> <li>・教材の工夫や学習環境の整備により、個に応じた指導・支援を実践することができた。</li> </ul> <p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の障害の重度・重複化が加速し、気管切開や人工呼吸器といった高度な医療的ケアを必要とする子供が増加しており、様々な実態の児童生徒のニーズに応えることのできる指導力が必要である。また、経験豊富なベテラン教員が減少しつつあり、そのスキルをいかに若手教員に継承していくかも課題となっている。今後も、外部の専門家やベテラン先輩教員による研修会などを工夫して、個々の教員の肢体不自由教育に関する専門性を底上げして、学校全体の指導力を向上できるように、継続して取り組んでいく必要がある。</li> </ul>	
対象者(学年・人数など)	全教員69名	
実施実績	4月	
	5月	対象児童生徒の選出と教員による実態把握と指導目標等の設定
	6月	理学療法士による授業参観・指導助言①②、作業療法士による授業参観・指導助言①②
	7月	理学療法士による授業参観・指導助言③④、作業療法士による授業参観・指導助言③④
	8月	
	9月	
	10月	理学療法士による授業参観・指導助言⑤
	11月	理学療法士による授業参観・指導助言⑥⑦、作業療法士による授業参観・指導助言⑤⑥⑦
	12月	理学療法士による授業参観・指導助言⑧、作業療法士による授業参観・指導助言⑧、教材等の選定・購入
	1月	実践のまとめ
2月		
3月		